

学研高山地区及び周辺地域 魅力あっぷ通信

Vol.5

R8.4

発行：生駒市学研推進課

令和7年度第3回ワークショップで意見交換を行いました。

生駒市では、令和6年度から学研高山地区第2工区及び周辺地域の魅力向上を考えるワークショップやアンケート等を行っています。令和7年度は、地域の魅力向上につながる拠点を検討しました。

【日時・場所】 令和8年2月10日(火)・奈良先端科学技術大学院大学

【アドバイザー】 奈良県立大学 教授 佐藤 由美 氏

【参加者】 15名(第2工区地権者、周辺住民の方、地域事業者、学生、大学職員)

【事務局】 生駒市・奈良先端科学技術大学院大学

第3回ワークショップの様子

令和7年度第3回目となる今回のワークショップでは、これまでの取り組みを踏まえて作られた施設構想案のラフ案をもとに、求められている機能の過不足等について話し合い、この地域の魅力向上につながる施設構想案作りを進めました。



総括コメント(アドバイザー 佐藤 由美 教授より)

ラフ案をもとに深掘りをされましたが、それぞれの班で深める方向性に特徴がありました。

施設に求められる機能について、具体的な人・場所のイメージや「機能同士の結びつき」を念頭に細かく議論している班や、資源の活用法を議論していた班もありました。そのほかにも採算性や「連携と調和のとれた運営」など様々な視点の議論が交わされ、提案もされました。

今回までの意見交換を踏まえ作成する構想案は、地権者と市だけでは実現が難しいかもしれません。だからこそ、この取り組みを市民の方々に広く伝え、民間企業等も含めた多くの人たちが関わることで、実現に向けて協働するきっかけになればいいと思います。

この地域のまちづくりが次のステップに上がるときに、今後もこうしたつながりが続いてほしいです。



第3回ワークショップの結果

各班において構想案のラフ案をもとに、新たな視点で議論された具体的な機能や、資源の活用方法または運営方法についてのアイデアなど、様々な視点での意見が出ました。

広域的な地域交流 未来へのゲートウェイ

この場所だからこそ得られるワクワク感や新しさ、高山地域の魅力が伝わり、賑わいを創出できるアイデアについて話し合いました。

高山地域でとれた食材を、食べるだけでなく、体験として楽しめる機能や、人と人とのつながりを生むような様々な意見が出ました。



佐藤先生 コメント | 人や場所のイメージを具体化したうえで、この場所にあるべき機能について考えられていました。

食・健康・文化・学び、交流拠点 生活の質が高まるたけまるタウン

学研高山地区ならではの「サイエンス」を活かせる商業機能について色々なアイデアが出ました。歴史と先進性の調和や、先端大の研究技術を用いた発酵食品、留学生による国際色豊かな料理を提供できる場など大学とのつながりを感じる意見が出ました。



佐藤先生 コメント | サイエンスという特色を盛り込みながら、具体的な機能について議論されていました。

地域と大学の課題やニーズがみつかる・つながる暮らしのまちラボ

産学連携や大学施設を地域交流に活用できるものにするための機能について、採算性を考えながら話し合いました。

産学連携による技術を活用した実証実験施設や、ゲストハウス等、地域とつながり共創の拠点となる大学関連施設について多くの意見が出ました。



佐藤先生 コメント | 採算性を大事に議論されていました。また、産業界とのつながりについても考えられていました。

自然・歴史文化との共生 みんなで活用！高山地区の資産

近隣の貸農園や農業体験所との差別化を生むためのアイデアについて話し合いました。

地域資源を利用した熱源を使ったハウス栽培や循環型の農業のほか、就農の課題も学べる特徴を持った農業体験所の運営など、自然と地域を活用した意見交換が行われました。



佐藤先生 コメント | 高山の資源を活かしていく視点をもちながら、運営の側面を具体的に深掘りされていました。

今後の予定

今回のワークショップで出た意見を「高山地区の魅力向上につなげる拠点」構想案としてとりまとめ、今後構想案の実現に向けた取組みを進めていきます。